

## 講 義 要 綱

科目	文化人類学	単位	1	時間数	30 時間	開講期	1 年後期	担当者	服部慶巨
----	-------	----	---	-----	-------	-----	-------	-----	------

講義の目標および概要	<p>現代は「価値の多様化」の時代である。医療現場でも様々な環境・経験・価値観を持った患者に対応する知識や技術が必要になる。当然、国際的な視野が求められることになる。</p> <p>そこで、まず我々「人間」がどのような存在であるかを確認し、日本および日本以外の文化と交流を理解するための概念・理論・キーワードを紹介し、具体的な事例と共に理解を深め、併せて自分自身を見つめ直すきっかけを与えたい。</p> <p>また、必要に応じて他の学問（社会学、倫理学、Death Education など）の知識をふまえて解説する。</p>
講義項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．講義ガイダンス</li> <li>2．状況（情況）判断</li> <li>3～5．社会的動物としての人間</li> <li>6～8．文化（culture）とは何か？</li> <li>9．「愛」の比較</li> <li>10～11．国際化と文化変容</li> <li>12～14．日本（人）と文化</li> <li>15．終講試験</li> </ol>
評価方法	<p>終講試験（70％） 受講態度（20％） レポート類（10％）で評価する予定。</p> <p>なお、終講試験を受けるためには、全講義回数の3分の2以上の出席が原則必要となる。</p>
受講生への要望	<p>截拳道の創始者とされるブルース・リーは、「Don't think. Feel!!」（考えるな。感じるのだ!）という名言を残している。この講義も、そのような感覚で「参加」してほしい。</p> <p>また、文化人類学は机上の学問ではないので、「出席」よりも「参加」が期待される。</p>
テキスト	『補強版ストレス・スパイラル』服部慶巨 人間の科学社
参考文献	講義中に指示する。